会　議　記　録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和５年度第３回高松市創造都市推進審議会
開催日時	令和５年１０月３０日(月)　午後零時３０分～午後１時２５分
開催場所	高松市役所１１階　１１０会議室
議　　題	（１）第３次高松市創造都市推進ビジョン【答申】（案）について （２）その他
公開の区分	■　公開　　□　一部公開　　□　非公開
上記理由	
出席委員	佐々木会長、原副会長、二宮委員、荒川委員、香西委員、平野委員、藤田委員、桑島委員、杉ノ内委員
事 務 局	中川創造都市推進局長、塩田創造都市推進局次長、次田文化・観光・スポーツ部長、松本産業振興課長、平井産業振興課長補佐、岡本産業振興課創造産業係長、伊藤産業振興課主事
傍 聴 者	２　人　　（定員　３　人）
担当課及び連絡先	産業振興課　創造産業係 ８３９－２４１１

審議経過及び審議結果

１　開会

（事務局から開会の挨拶）

２　議題（１）

【事務局（産業振興課）】

（答申（案）及び第２回審議会からの変更点について説明）

【会長】

この答申（案）については、本日欠席の委員もいることから、先日、事前に各委員に送付し、意見聴取を行った。改めて事務局から説明があったが、第３次高松市創造都市推進ビジョン策定に係る答申をこのとおり決定させていただく。

（意義なし）

審議経過及び審議結果
2　議題（2） 【会長】 　これからの施策の展開に関する御意見や事務局への御要望等、御意見があれば述べてほしい。 【委員】 　創造都市の推進の成果は評価しにくいところだと思うが、創造都市の推進の成果指標はどのように定める予定か。 【会長】 　このビジョンは、産業、ものづくり、観光、文化、スポーツ等幅広い分野を一体的に推進するための指針である。それぞれの分野で、「文化芸術振興計画」や「スポーツ推進計画」等といった計画が策定され、その中で成果指標が設けられている。それらの進捗状況を審議会で報告してほしいので、答申文の附帯事項の１つ目として「適正な進行管理と評価に努められ、当審議会にも、適宜、御報告していただくことを希望します。」という記載をした。 　創造都市は、数値で表すのが難しい。例えば、福祉を意味する「welfare」という言葉は、最近は「well-being」が使用される。これは、「welfare」は、ナショナル・ミニマムを定める定量的なものだが、「well-being」になると、一人一人の良い生活という主観的な要素が多くなる。 　単純に一つ二つの数量で定量的に成果を測るのは難しいが、全体として見ると、高松市或いは香川県全体の「well-being」が上がっていくことを目指していくことになる。 　創造都市を市民がどのように実感しているかについては、この審議会で今後検討・研究していくテーマではないか。 　このビジョンを作ってそれで終わりではなく、深堀りしていくようなこともこの審議会でできたら良い。 　事務局はどうか。 【事務局（産業振興課）】 　このビジョン自体の成果指標については、市の最上位計画である総合計画に様々な施策が掲載されている中で、創造都市に関連した部分、例えば、「商工業の振興」に始まり、「農林水産業の振興」、「就業環境の充実」、「高松ブランドの向上」、「観光振興と交流の推進」、「定住人口の拡大」、「文化芸術の創造と承継」、「スポーツの振興」というような部分について、市民の満足度を測る調査を行っているので、その指標が上昇していくことを目指していく。 　客観的な数字での評価は、各課で策定している計画で設けられている成果指標で進捗を確認していきたいと考えている。

【委員】
成果指標をインフォグラフィック（情報を視覚的に表現する画像）的に考えると、指標が複数あって、それを円状に並べると最初は、八角形なり十角形なりデコボコしているが、将来的にそれが円に近くなっていくっていうイメージ。
色々な分野、色々な矢印（ベクトル）がいろんな方向に向いているが、それがなるべく円になっていくようにというイメージが良いと思う。

【会長】
８個程度の成果指標がバランスのとれた形であると良い。
高松市はそのバランスが取れており、その矢印を膨らませていくイメージである。

【委員】
もちろん円が大きくなればなるほど良いが、まずは、円に近づいていくという感じだろうか。
インフォグラフィック的に、視覚的に市民に提案していくのが、それこそ国籍、性別、年代問わず、インスピレーション的に伝わるのではないかと思う。

【会長】
一つ二つの成果指標ではなく、いくつかの複合的な指標においてバランスがとれている状態にしたい。
日本の中で高松は、バランスが取れた創造都市として認知されるようにしたい。
今回のビジョンでは世界都市という言葉を何度か使用しているが、世界から見ても、高松は創造都市であるという認知を上げていきたい。
「Made in Takamatsu」が当初漢字であったので、世界を意識して、アルファベットにしてもらった。

【委員】
グローバル戦略の箇所についてだが、生成ＡＩっていうのは、１０年経過したら人間の叡智を超えるとも言われていると思うが、このデータをうまく使わないといけないと思う。今後、ＳＮＳというのは非常に大事だと思う。
ＳＮＳに限らず、今後、何がどのようなメディアに出てくるか分からないが、そこをずっと研究していかないといけないと思う。それはぜひ自治体、市役所で続けていってほしい。

【会長】
このビジョンは８年計画だが、その８年間で変化は必ず起こる。そのため、中

間段階できちんと見直しをする予定としている。中間で見直しをしてさらにブラッシュアップをしていきたい。

【副会長】
審議会以外でも様々な会議が市にはあって、それぞれで、成果指標となる数字が設けられている。この会議は、「創造都市」の全体の会議なのでそういった詳細な数字が見えてこないので、具体的な設定がないとの見え方をしてしまうかもしれない。
市の他の会議の資料を見ると、そういった数字が設定されているということを皆様のご理解をいただきたい。

【会長】
年に 2 回～3 回程度審議会が開催されているが、その時に広く色々な分野について議論するのも良いが、例えば個別の分野に絞りこんで議論してみる、深掘りするような形を考えても良いかと思う。例えば、産業振興課が担当している工芸分野を例にすると、関係者をお呼びして講演を受ける、或いは工芸産地で会議を開催する等、色々な方法があると思う。
そういう形で、テーマを少し絞り込んだ会議と、全体を広く俯瞰する会議を併用しても良いのではないか。
テーマを深めて研究し、それを共有するような会議になれば良いかと思う。

【委員】
市と県で広報アドバイザーを務めているが、広報誌「THE かがわ」についてデジタル化するかどうかアンケートを取ると、約 8 割が反対している。

【会長】
紙の方が良いということか。

【委員】
紙だと、若い人に何か届かないジレンマがある。
神戸市が、「神戸市公式 note」を作成しており、情報を分かりやすく説明していてフォロワーも最近急激に増えている。「神戸市公式 note」に市長の動きとか、神戸の歩き方等があり、コンテンツとして市の職員が運営している。若い世代にも届くような、読みやすい形の公式 note を作成すると良い。
高松市も、今ある広報紙をデジタル化するのではなく、若い世代が見やすい媒体にすると良いと思う。

【会長】
それはぜひ、対応してほしい。

【事務局（産業振興課）】
　それでは、佐々木会長から第3次高松市創造都市推進ビジョンの策定について答申をお願いする。

（会長から大西市長へ答申文を提出）

（市長挨拶）

【会長】
今日は、第 3 次のビジョンを市長に答申して、第 2 次ビジョンまでの成果を土台に第3次に向かうことになる。
第2次ビジョン下は、半分近くの期間がコロナ禍となってしまった。コロナ禍前は、「創造都市　高松」として、先進的な事業を行っていた。中でも、「こども」分野にはかなり注力している。芸術士派遣事業という高松市の代表的な事業があるが、これは全国的に広がり、京都市や金沢市でも類似のものが始まっている。
少子化の状況で、子どもの環境を創造的にするということはとても大事なことで、それは、高松市創造都市推進審議会として誇っている。
ただ、残念なのはコロナの時期があって、第2次ビジョン前半の好調さからすると足踏みしている状況である。しかしながら、コロナ禍が明け、第 3 次ビジョンが始まるとともに、もう一度その新しい波を起こしていく段階に来ているのではないか。
創造都市ネットワーク日本（CCNJ）は、約 10 年前、ちょうど高松市が創造都市を掲げた時と同じ時期に始まった。当時は横浜市、金沢市、神戸市等の 20 数都市が加入していたが、今では約 120 都市にまで広がった。高松市については、全国のリーダーとして活躍してほしい。また、ユネスコ創造都市というネットワークがあるが、遅くない時期に、高松市もぜひユネスコ創造都市にもチャレンジをして欲しいと思っている。
引き続き大西市長にリーダーシップをとってもらいたい。

3　閉会